



## 政策分野V

# 第5節 生活利便性・環境

誰もが、住み慣れた場所で暮らし続ける環境づくりに向けて、持続可能な公共交通体系の形成や、ICTを活用した利便性の向上に向けた取組みを推進します。

また、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、保全と活用の取組みを推進します。

## まちづくりの基本方向5

## ゆるやかにつながっているやさしいまち

## 【主要分野】



## 【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

- 住民の多くは、過疎・高齢化による生活環境の変化から、住居地域や年齢等に関わらない交通弱者への公共交通の抜本的な改革による利便性の向上を求めています。
- また二次交通による町内事業者同士の横連携が可能な体制づくりを求めています。
- 町外に通勤・通学等で通うために利用する公共交通や車利用の満足度は高まっているものの、一方で買い物や通院、日常生活で利用する公共交通や高速道路の利用に対する補助が求められています。

## 【関連する分野】



- 住民の多くは、将来、免許返納等により車の利用ができなくなった場合の医療・福祉サービスへの不安・負担を漠然と感じています。
- 在宅における介護負担を軽減するための知識習得や制度理解の需要が高まっており、高齢者でもわかりやすい情報の発信を求めています。



- 二次交通を活用したヒト・モノ・カネ町内循環型の観光産業の発展を求めています。また併せてエコツーリズム推進法の認定をめざすことを求めています。
- 産業・観光の発展を目的とした事業者・団体同士の連携をはかるマッチング機会や、意見交換を行える話し合いの場を求めています。
- 販路の開拓や事業の継承など、町内事業者とヒトをつなぐことができる場づくりが求められています。
- 町内の事業者の多くは、国定公園である恐羅漢山や季節に依存する観光産業について、より多くの誘客・観光消費額の増加を望んでおり、町内循環とさせる仕組みづくりと誘客のための情報発信力の強化を求めています。



## 施策20 自然環境の保全に取り組みます

## めざす住民の生活状態

○森林、河川等の自然環境が良好に保全され、多面的な機能が発揮されています。

## 現状と課題

住民アンケートにおいて、「本町の魅力・誇りに思うこと」として「自然環境」・「景観」と回答された町民が、半数以上を占める等、恵まれた自然環境は、将来にわたって守らなければいけない重要な地域資源といえます。

豊かな自然環境、地域の歴史文化を残す風土を守るとともに、各種の公共空間整備において地域の特色を考慮した自然や歴史と調和のとれたまちづくりを進めていくことが求められます。

## 【町民意見・提言】

- 町を流れる太田川の景観や、川の水の水質がきれいなままであってほしい。
- ごみの仕分け区分が細かい。もう少しだけ楽になつたら嬉しい。

## 施策の展開方針

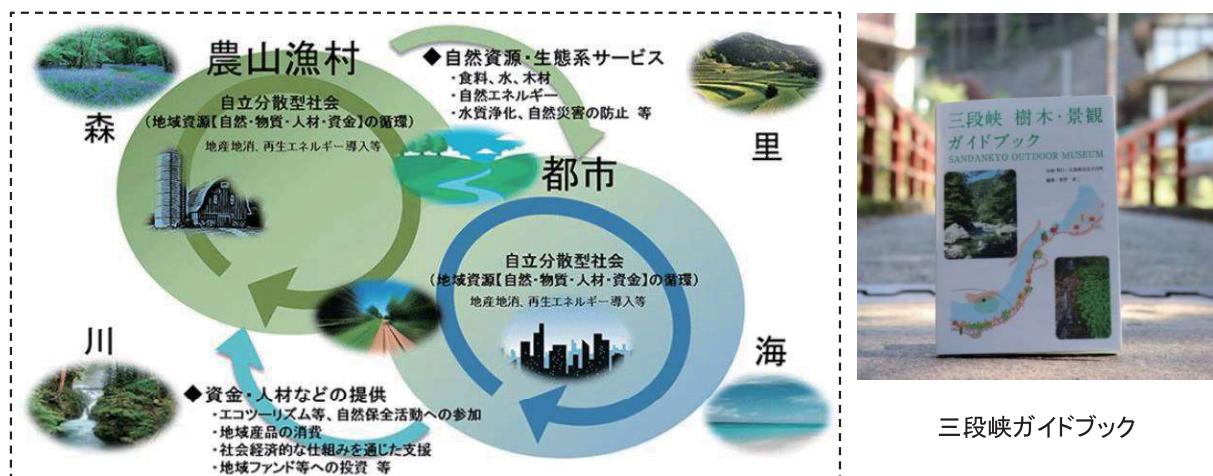
太田川上流域の清らかな河川環境と深入山をはじめとする中国山地の豊かな自然環境は、住民みんなの誇りです。また、本町の自然には、貴重な生物多様性が守られており、希少な動植物が生息しています。

豊かな自然環境を良好な状態に保全していくため、生活排水、トイレの水洗化を促進すると同時に、地域や住民団体、さらには地域を越えて本町の自然環境を守る活動に参加する多様な層との協働により、クリーン太田川活動、アダプト※活動等に取組みます。

また、こうした貴重な自然環境と生態系を未来に継承するため、生物及び生態系の調査、生物多様性地域戦略の策定検討、自然環境を守る人材育成と仕組みづくりを進めるとともに、環境教育の充実を図ります。特に、エコツーリズム推進法の認定をめざし、地域循環共生圏を軸とする各施策との連携をより一層図ることとします。

## ◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	環境学習会参加人数	32人 (H30実績)	50人	住民生活課	環境学習参加者数調査(町調)
2	エコツーリズムツアー参加者	0人	100人	商工観光課 生涯学習課	ツアー参加者数調査(町調)



地域循環共生圏の概念図(環境省HPから抜粋)

※ アダプト：清掃や植栽等の環境美化や維持管理活動、チラシの作成などの地域への啓発活動、河川環境学習や水辺に親しむためのイベント等を指す。

## ◆個別施策

045	里山林を確保し自然環境の保全	担当課	住民生活課 建設課
-----	----------------	-----	--------------

環境保全に対する意識を高め、ごみの分別、リサイクル、再資源化を推進します。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 環境衛生管理事業(水環境保全)	水環境保全に関する学習会の開催	1回	1回	住民生活課
2 アダプト活動事業	アダプト活動団体補助交付団体数	12団体	15団体	建設課

046	自然環境が有する機能の有効活用	担当課	商工観光課 企画課 生涯学習課
-----	-----------------	-----	-----------------------

自然資源を有効活用し、エコツーリズムを推進します。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 三段峡・太田川エコツーリズム 推進事業	エコツーリズムツアー造成数	0回	10回	商工観光課 生涯学習課
2 文化財保護管理事業【再掲】	三段峡の特性理解講座回数【再掲】	4回	4回	生涯学習課



## 【エコツーリズムとは】

自然や文化や歴史的遺産などを守りつつ、それらとのふれあいをガイドの解説を受けながら楽しみ、地域の経済振興に結びつけようとする旅の考え方をエコツーリズムといいます。この考え方には、地域の個性あふれる素晴らしさをいつまでも絶やさずにいたい、という願いが込められています。キーワードは、環境保全、地域、そして感動です。

(日本エコツーリズム協会 HP から抜粋)

## 【深入山の山焼き】

西中国山地国定公園内の標高 1,153m の深入山は、山全体が柔らかな草原に覆われた美しい山。この深入山、約 100ha の草原を焼き払う山焼きは、1749 年には山を焼いたという記録が残っており、古くはワラビ山や肥草山として利用するために行われ、近年においては放牧なども行われていました。

生活様式が変わった現代では、その様子が壮観なので芸北地方に春の到来を告げる一つの伝統行事として定着しています。

また、人と自然が 250 年以上の長きにわたって関わり、共生する事によって草原の山として景観が保たれてきた深入山は、草原に生きる植物にとってはオアシスであり、今では珍しくなった数多くの山野草を観察することができます。



深入山の山焼き



## 施策 21 環境に優しいまちをつくります

## めざす住民の生活状態

○環境保全意識の高い住民が増え、多様な主体による循環型社会づくりが進んでいます。



## 現状と課題

本町の一般廃棄物の処理については、平成29年3月まで山県郡西部衛生組合で安芸太田町と北広島町（旧芸北町）の一般廃棄物の処理を行ってきました。しかし、構成市町の減少や人口減少に伴う処理量の減少、施設の経年劣化に伴う維持修繕費の増加等により、将来にわたり現行の処理体制を継続することが困難となりました。

平成29年4月からは安芸太田町の可燃ごみ、し尿及び浄化槽汚泥の処理は、中間処理施設である「ポックルくろだお」を中継・中間処理施設として経由し、委託先の広島市へ搬出しています。

また、ごみの分別、ごみの資源化の促進等によるごみの減量化や省エネルギーへの取組み、再生可能エネルギーの活用等、地球環境に配慮した取組みは今後一層推進していく必要があります。林道等の人目に付きにくい場所への不法投棄は後を絶たない状況から、関係団体と連携した防止・監視活動が必要です。

## 【町民意見・提言】

- 安芸太田町でもバイオマス<sup>※1</sup>を使った発電を取り入れてほしい。
- 景観を損なわないよう、ソーラーパネル設置は町でしっかりと設置基準を決めてほしい。
- 草や木だけ焼く処理場が自治会単位であれば不正な野焼きがなくなるのでは。野焼きは土にもよい肥料になり害虫予防にもなる。

## 施策の展開方針

循環型社会の形成を進めるため、公衆衛生推進協議会等との連携により、ごみの資源化・減量化に向けた啓発やPR活動を強化するとともに、警察や地域と連携して不法投棄抑制のための仕組みづくり、不法投棄防止の啓発活動を推進します。

地球規模で高まる人々の環境意識を背景に、温室効果ガスの削減、省資源・省エネルギーの取組みを進めることができます。本町においては、温室効果ガス削減に向けた取組みを進めるため、間伐の促進等良好な森林整備、木質バイオマス等の本町の特性を生かした再生可能エネルギーの導入、また町の事務及び事業により排出される温室効果ガスの削減も取組みます。また、一般廃棄物の適正な処理を含め衛生的な生活環境と豊かな自然環境を保つ地域社会の実現をめざします。

## ◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	町事務及び事業による二酸化炭素排出削減量 (2013年度比)	-14%	-27%	住民生活課	二酸化炭素排出削減量調査（町調）

## ◆関連する計画等

No.	関連する計画等	担当課
1	安芸太田町環境基本計画	住民生活課
2	安芸太田町地球温暖化対策 実行計画	住民生活課
3	安芸太田町一般廃棄物処理基本計画	衛生対策室



## 【ペレットストーブ等購入促進制度】

本町では、ペレットストーブ等を購入される町民に補助金を交付しています。

この制度は、地球温暖化防止対策、森林の多面的機能の向上のため、バイオマスエネルギーの利活用を促進し、地域資源循環システムの構築と林業の活性化に寄与することを目指しています。

## ◆個別施策

047	廃棄物の発生(排出)抑制、再利用及び再生利用	担当課	衛生対策室
-----	------------------------	-----	-------

ごみの発生排出量の抑制、ごみの分別推進に取り組むとともに、リサイクルに対する意識醸成を図り、リサイクルやアップサイクルによる再資源化を推進します。また地域と協力して、町の環境と町民の健康の促進に努めます。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 清掃総務管理事業 (不法投棄防止啓発看板設置)	不法投棄防止対策啓発及び巡回パトロール実施	2回	6回	衛生対策室
2 清掃総務管理事業(ごみ出しポスター・ガイドブック作成)	分別PR、リサイクル意識醸成啓発	12回	12回	衛生対策室

048	適正な廃棄物処理体制の構築	担当課	衛生対策室
-----	---------------	-----	-------

一般廃棄物の適正な排出と処理を推進する。衛生的な生活環境保全と自然環境保全の観点から適正なごみ、し尿処理を行います。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 ごみ処理管理事業	野焼きの禁止等無線による啓発回数	3回	3回	衛生対策室
	住民、地域、事業所等への適正処理の推進回数	5回	5回	衛生対策室

049	再生可能エネルギー活用促進(地球温暖化対策)	担当課	産業振興課 総務課 住民生活課
-----	------------------------	-----	-----------------------

温室効果ガス排出量の削減に取組み地球温暖化対策を推進します。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 森林バイオマス熱利用普及促進事業	木質バイオマス※1ペレットストーブ等補助	4回	4回	産業振興課
2 環境衛生管理事業(地球温暖化対策)	カーボンマネジメント※2推進会議の開催	1回	1回	住民生活課



安芸太田町は、地方公共団体として  
“COOL CHOICE”に賛同しています。

\*1 バイオマス：動植物から生まれた、再利用可能な有機性の資源（石油などの化石燃料を除く）のこと。

\*2 カーボンマネジメント：国や地方自治体、民間企業などの各団体や組織が、地球温暖化の原因と考えられている温室効果ガスの排出状況を把握し、温室効果ガス排出量の抑制・削減に向けた取組みを継続的に実施すること。



## 施策 22 快適で利用しやすい公共交通環境をつくります

### めざす住民の生活状態

- 生活利便性の高い交通体制が確保され、居住地域や年齢等に関わらず、標準的な日常生活を送ることができます。
- 通勤・通学をはじめ住民生活と地域経済に関する主な交流先である広島市をはじめとする諸都市とつながる便利な交通道路網が良好に維持されています。

### 現状と課題

利用者の高齢化により路線バスではバス停までの距離移動やステップの乗降などが困難となるケースが増加しています。公共交通利用者数も減少しており、交通弱者の移動手段の維持、確保が課題となっています。

#### 【町民意見・提言】

- 学生が通学などで市内に出やすくするよう経済面の負担を減らしてほしい。
- バス停までが遠い。乗り降りも楽なタクシーを充実させて経済的負担も軽減してほしい。
- 高齢者も利用しやすい公共交通を求めます。通院するのに負担が大きい。
- 国道沿いに家があっても、バスに乗れない高齢者が多いと思う。助けようにも個人の親切には限界がある。
- スクールバスを小中学生以外でも使えるようにしてほしい。年齢を問わずかなり助かります。

### 施策の展開方針

高齢化や過疎化が進むことで、利用者数の減少により、交通弱者の移動手段の維持、確保がますます大きな課題となっています。

このため、「あなたく」やタクシー助成制度をはじめ、周辺地域等においても利用しやすい公共交通体系の確立に努め、利用促進策の実施等に取組みます。

路線バスについては、利用者が減少している中「再編」を視野に入れながら効率的な交通を検討していきます。

また、移動媒体の効率的な利用促進のため、スクールバスへの一般混乗や路線バスや「あなたく」での貨物混載の検討に取組みます。

また、地域コミュニティ活動等による互助の仕組みづくりや、便利で利用しやすい新たな「乗り合い」での移動に関する仕組みづくりについての検討を行うこととします。

一方で、新たなシステムや交通媒体など、最新技術を取り入れた交通体系を模索します。

#### ◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	公共交通の利用者数（町内）	35,202人	33,000人	企画課	公共交通利用者数調査（町調）
2	公共交通の利用者数（町外）	120,216人	115,000人	企画課	公共交通利用者数調査（町調）

#### ◆関連する計画等

No.	関連する計画等	担当課
1	安芸太田町地域公共交通網形成計画	企画課

## ◆個別施策

050	持続可能な公共交通システムの構築	担当課	企画課
-----	------------------	-----	-----

将来にわたり、持続可能な公共交通体系のシステム構築を行うとともに、より快適な交通をめざし改善を進めます。また、新しい運行システムや運行スタイルを広く検討し、交通再編をめざします。

都市部と町を繋ぐ「高速バス路線」を、近隣市町やバス事業者との連携を図りながら、住民の生活利便性の維持確保・観光客の来訪促進のため、便利で快適な公共交通環境の維持を図ります。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 地域公共交通網形成計画の策定	住民ヒアリングによる改善回数	2回	2回	企画課
	公共交通を考える会	8回	8回	企画課

051	多様な移動手段の確保支援	担当課	企画課 福祉課 学校教育課
-----	--------------	-----	---------------------

通学や通院、買い物など、日常生活に密着した交通網を維持し、安心して住み続ける事の出来る移動環境を整えます。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 高齢者生活支援移動活性化補助金事業	タクシー助成認定者数	243人	300人	福祉課



あなたく



町 HP「バス・あなたく時刻表」



石見交通高速バス



広島電鉄三段峡線



町内バス



## 施策 23 ICT の有効活用を推進します

## めざす住民の生活状態

○情報を取得しやすいネット環境の整備推進と有効な情報発信が行われています。

## 現状と課題

平成 26 年度に、町内全域に光ブロードバンド<sup>※1</sup> 環境が整備され、情報化に向けての基本的なハード整備が整いました。現状の光ブロードバンド加入率は 45% となっています。

今後は、インターネットの加入促進を進めるとともに、行政情報発信のためのシステム構築、スマート教室等の学習機会の提供が必要です。

また、行政内部においても、デジタル専門人材の確保、育成を行っていく必要があります。事務の効率化や住民サービス向上の観点から、ICT（情報通信技術）の有効活用を進めることで、あらゆる世代にとって安全で使いやすいサービスの構築が求められています。そのため社会的に有効利用できる行政情報のオープンデータ化の検討を積極的に進める必要があります。

また第 5 世代移動通信システムなど急速な技術発展を、子育て・教育・次世代育成や生活利便性、医療・福祉環境、社会基盤・防災・防犯、産業や観光などのあらゆる分野で活用し、「Society5.0<sup>※2</sup>」の実現が求められています。

## 【町民意見・提言】

- 携帯の電波が極端に悪いところがあるので改善してほしい。
- もっとインターネットを活用して、リアルタイムな情報を届けられる仕組みが必要。
- スマホやパソコンは今の時代必須。苦手な人も活用できる工夫をしてほしい。

## 施策の展開方針

本町においては、地域の情報通信基盤として光回線の整備を行ったことで、インターネットの高速回線が確立され、行政情報のリアルタイムな伝達手法として、住民に対するデジタル機器の利用促進およびインターネット利用の促進に努めています。

その一方で、インターネット環境にアクセスするための各種情報機器を操作できない高齢者等への配慮も必要になっており、その学習機会の提供も重要となっています。

また第 5 世代移動通信システムについて、あらゆる分野で活用の検討を行い、「Society5.0」の実現を図ります。

本町職員においても時代の潮流に沿った情報化社会に対応できる人材育成を積極的に行うこととし、デジタル専門人材の確保、ICT<sup>※3</sup>（情報通信技術）の有効活用による行政事務の効率化の検討を図ります。

また社会的に有効利用できる情報をオープンデータ<sup>※4</sup>化することで、新たなサービスやビジネスの創出などに繋がる取組みを行います。

## ◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	光ブロードバンド加入率	45% (H30 実績)	50%	総務課	光B B加入率調査 (町調)
2	インターネット活用教室の参加者数	10人	60人	生涯学習課	インターネット活用教室参加者数調査 (町調)

※1 光ブロードバンド：光回線を使ったインターネット接続のこと。

※2 Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会を指す用語。（内閣府 HP より）

※3 ICT：「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指す。

※4 オープンデータ：特定のデータが、一切の著作権、特許などの制御メカニズムの制限なしで、全ての人が望むように利用・再掲載できるような形で入手できる形式のデータを指す。

## ◆個別施策

052	情報通信環境の整備	担当課	総務課
-----	-----------	-----	-----

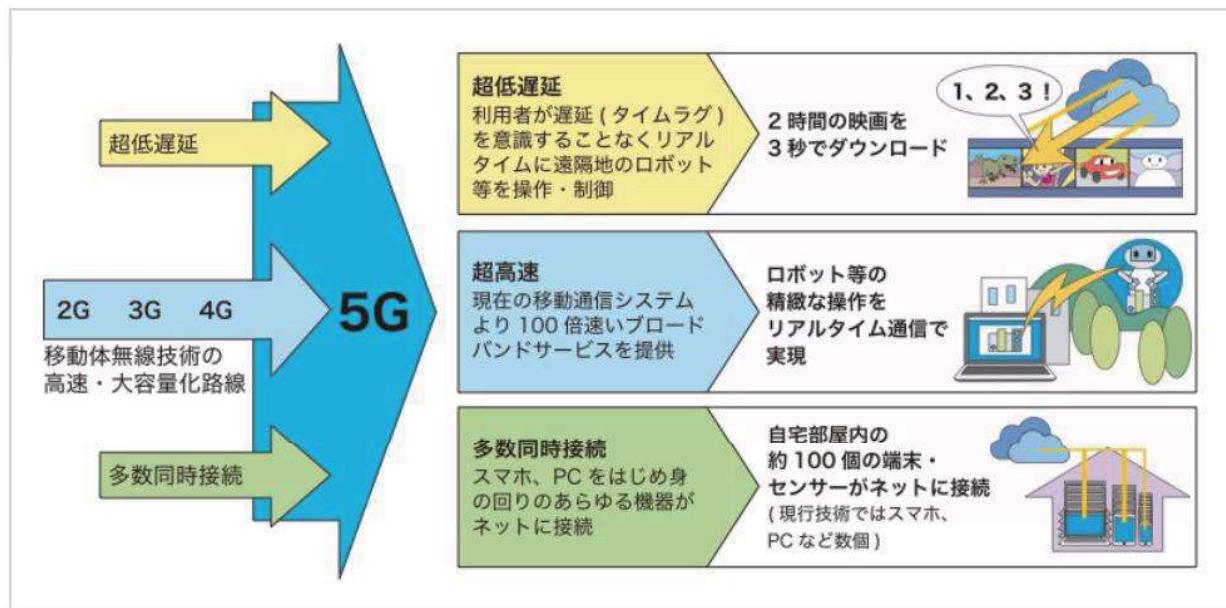
住民誰もが最新技術を享受できる環境を構築するため、光ファイバ回線への加入率の向上を図ります。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 高速プロードバンド基盤整備促進事業	光ファイバ加入促進に関する広報回数	4回 (H30実績)	4回	総務課

053	情報通信環境の有効活用の促進	担当課	総務課 生涯学習課
-----	----------------	-----	--------------

専門人材の登用、育成により、未来技術の有効活用策の検討を進めるとともに、スマホ・タブレットの未利用者に対し積極的な利用を促し、日常生活の利便性の向上を図ります。また全世代、誰もが情報化社会に取り残されない環境づくりをめざします。

主要事業	活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1 電算管理事業	最新技術に関する研修の参加回数	0回	2回	総務課
2 カルチャー教室【再掲】	スマホ・タブレットを使ったインターネット活用教室の開催回数【再掲】	1回	3回	生涯学習課



※ 総務省情報通信白書から抜粋「5Gで期待されていること」